

冬来たりなば春遠からじ

寒い日が続いている。皆さんの職場では風邪やインフルエンザなど流行っていないだろうか。

「冬来たりなば春遠からじ」という。暦を先に進めて、春の話をしてみよう。

講師業をしていると、年度替わりの4月は冬眠から覚めていきなりダッシュをするような感じで、ひと月あまりフル回転の日々が続く。私の年代になると、さすがに新入社員（職員）向けの講演や研修は少なく、新人を迎える側の管理職やメンターに対するものが主となる。

往年の映画『男はつらいよ』の寅さんではないが、トランク片手に北から南まで巡業の日々を送る。行き先は民間会社と自治体が半々といったところか。

県単位の研修は各地域の「地方自治研修所」で行うことが多いが、1か所、おもしろい名称をもつ県がある。「佐賀県自治修習所レナセル」がそれだ。通常の研修所ではなく「修習所」であり、しかもレナセルという外国語まで付いている。同所のホームページによると、レナセルとはスペイン語で「元気を取り戻す」「元気になる」という意味だとのこと。この心意気が楽しい。

レナセルでは例年、全日のメンター研修を担当している。新人の研修が終わった直後の4月中旬に訪問させていただくのだが、建物の通路には新人たちの集合写真と、各自の抱負を書き並べた紙が壁いっぱい張り出されている。まささらな若者たちの初心と向き合う感じで、研修前にここを通ると講師も受講者のメンターたちも足が止まり、心を洗われる。まさに「元気を取り戻す」ひとときだ。

人事コンサルタント 本田 有明

居酒屋で会った元気な若者

地方出張の楽しみのひとつは、ご当地ならではの美味と銘酒である。佐賀ではいつも前日の夜に駅前の居酒屋に赴く。お目当ては有明の海の幸と佐賀牛、鍋島・古伊万里・能古見などの吟醸酒だ。

できれば一度、研修を終えた後にのんびりくつろいで、と思うのだが、空路の最終便が早いので、前夜にちょっとだけ。上記の3銘柄の利き酒セット（少量）と佐賀牛のステーキをいただくのが定番になっている。

昨年、店で会計をすませ外へ出たところで「ありがとうございます！」と、びっくりするほど大きな声。レジにいた若者が深々と頭を下げている。

あまりに気持ちのよい挨拶だったので、「また来年も来ますよ。年に1回だけ」と声をかけた。

「自分は来年就職なので、たぶんお会いできませんが、またのご来店をよろしく願います」

私が面接官なら、そのやりとりだけで内定を出したくなるほど感じのよい若者だった。

「どんな業界が志望なの？」

「第一志望は地元の役所です」

そう聞いて、さらに話を続けなくなったが、相手は勤務中なので自重した。

季節は移ろい、やがて節目の時期を迎える。こうして書いてきて、ふと想像した。彼はどこに就職が決まっただろうかと。あの晩の笑顔は、まだ記憶に残っている。3か月後、レナセルの通路に張り出されるはずの新人たちの写真を、しっかり見てみよう。もしかして——ということも、ないとは限らない。

春を待つ楽しみがひとつ増えた。